

お詫びと訂正

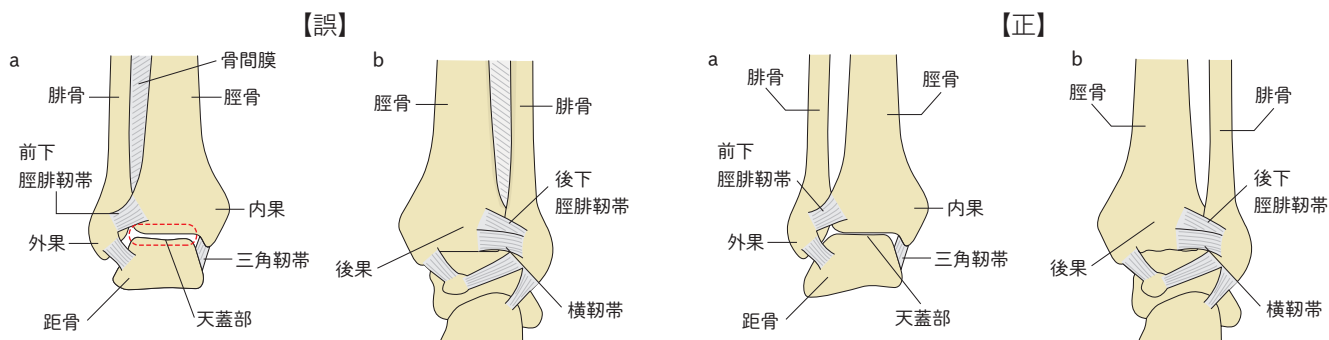
整形外科看護 26 巻 1 号「深める特集/いま押さえておきたい 足の疾患 8：アキレス腱断裂、足関節周囲骨折、変形性足関節症 etc」(p.57～83)におきまして、本文および図版に誤りがございました。ご執筆の先生ならびに読者の皆様に、謹んでお詫び申し上げますとともに、下記のとおり訂正いたします。

● p.58 本文

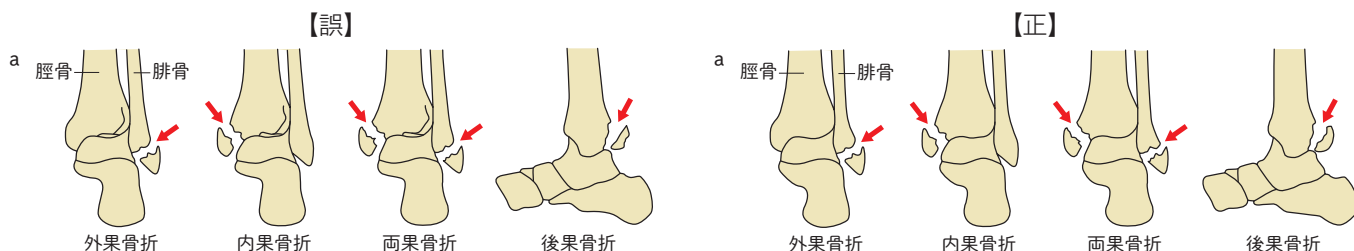
【誤】 また軟線撮影により軟部組織の状態を観察することができ、

【正】 また軟線撮影（胸部や骨の単純X線撮影とは異なり、低電圧で撮影する単純X線撮影）により軟部組織の状態を観察することができ、

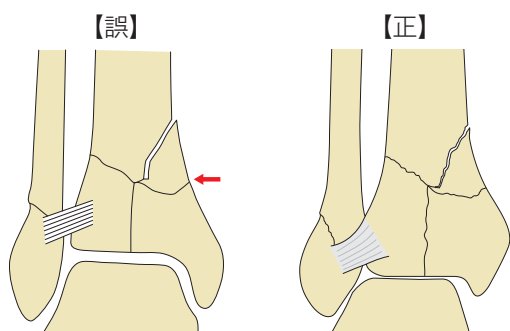
● p.61 図 1 「足関節の解剖と可動域の計測」 a、b



● p.62 図 2 「足関節果部骨折」 a



● p.62 図 3 「脛骨天蓋骨折」



● p.64 本文

〈右段 2～3 行目〉

【誤】 腫脹消退がみられる受傷後 1～2 週間で二期的手術を行います。

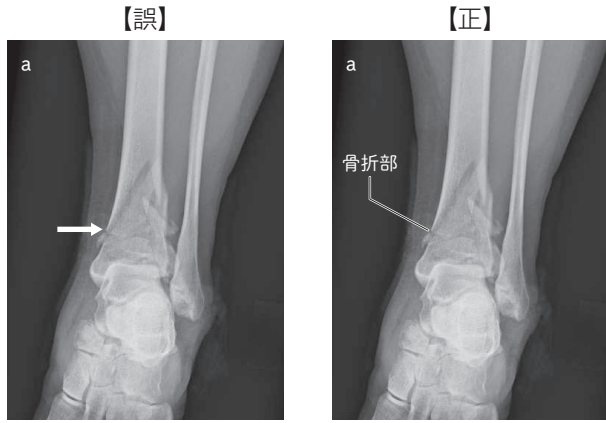
【正】 腫脹消退がみられる受傷後 1～2 週間で二期的治療を行います。

〈右段 6 行目見出し〉

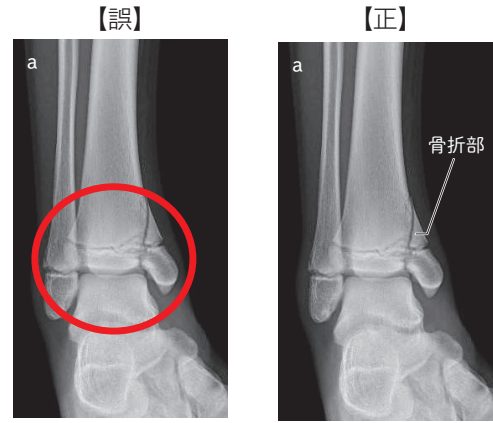
【誤】 二期的手術

【正】 二期的治療

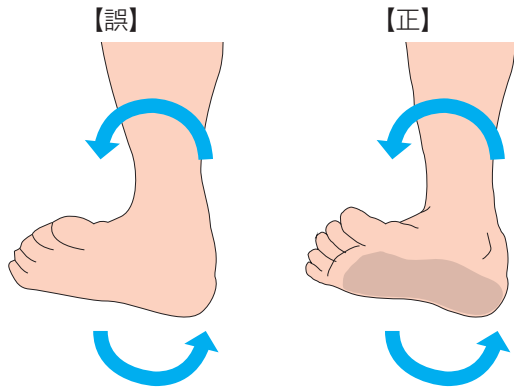
● p.65 図6 「脛骨天蓋骨折（ピロン骨折）」 a



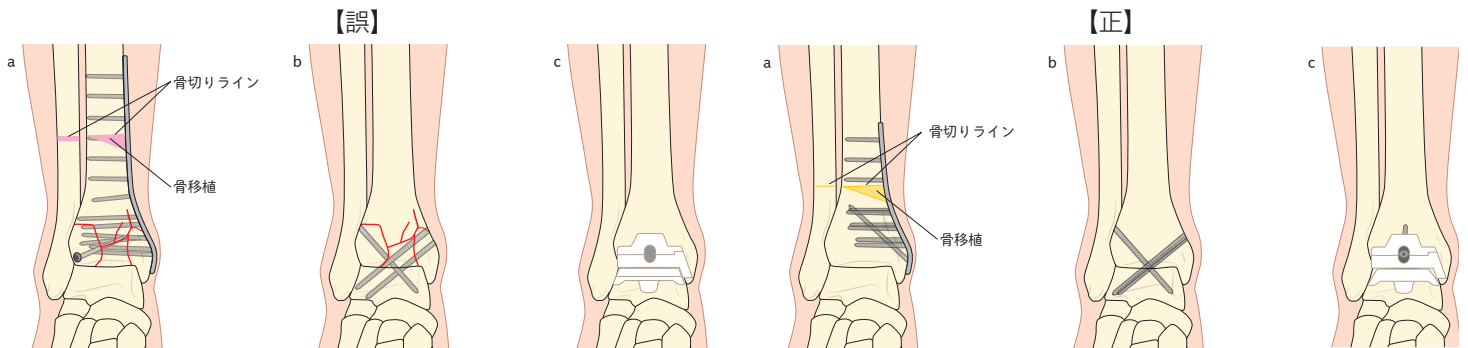
● p.65 図7 「小児の足関節骨折」 a



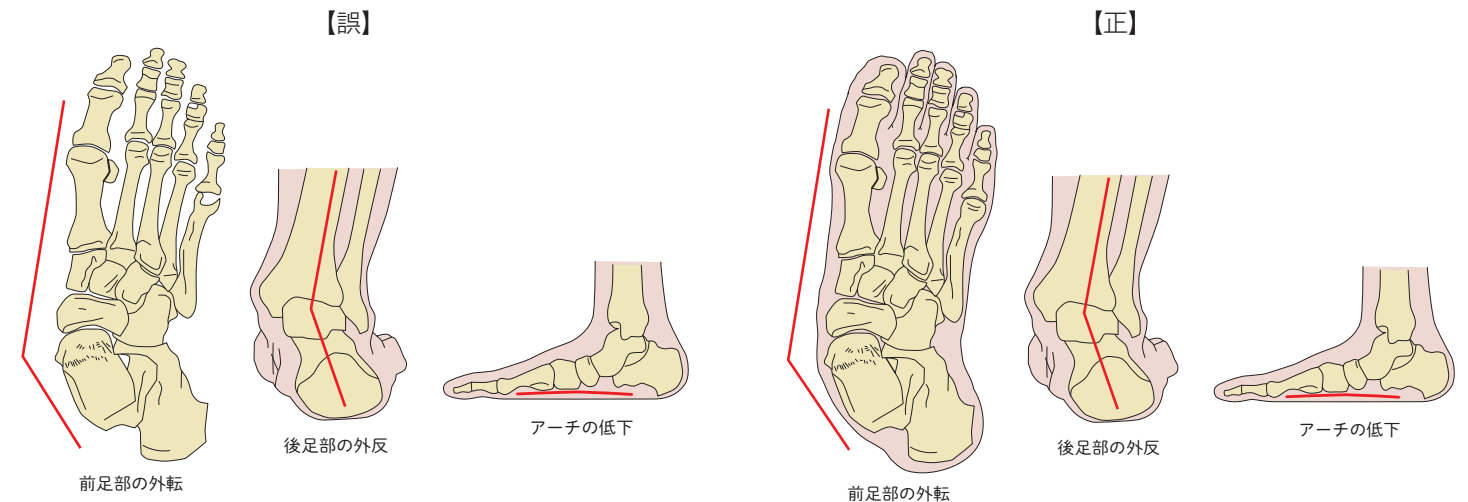
● p.70 図3 「のの字運動」



● p.71 図4 「変形性足関節症の手術療法の例（イメージ図）」

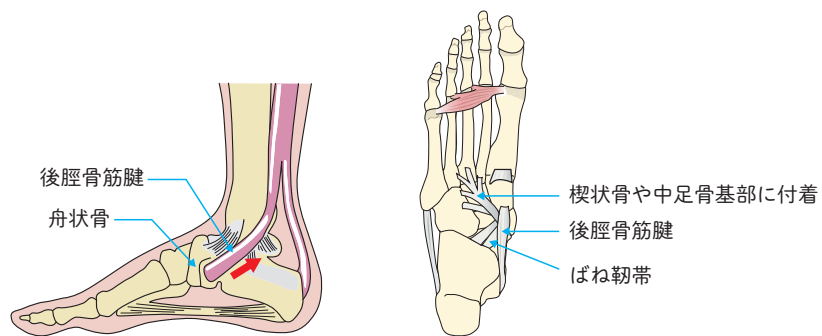


● p.72 図1 「扁平足変形」

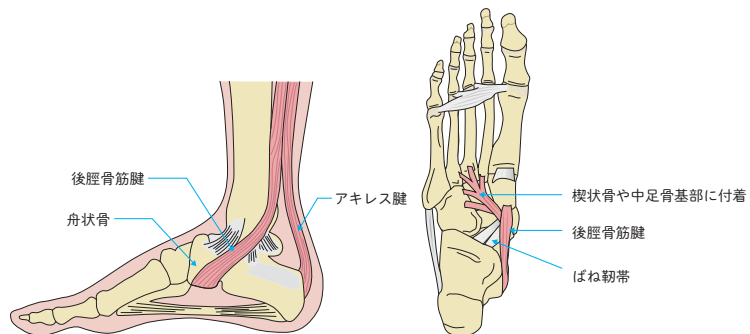


● p.73 図2 「後脛骨筋腱の走行」

【誤】



【正】



● p.82 図4 「Denis-Browne 装具」 キャプション

【誤】 両足につけた bar (棒) により下肢の屈曲伸展などの動きによって足部に強制力がはたらく。

【正】 両足につけた bar (棒) により下肢の屈曲伸展などの動きによって足部に矯正力がはたらく。